

健康食品業界 アドバンスセミナーのお知らせ

2025 年 2 月 14 日（金）13:30～16:40 ～オンライン配信（Zoom）／当協会 3 階会議室～

業務を担当して 5～6 年の方を対象とした内容です

- ・「生活者ニーズに基づいて研究開発を進めるための考え方～生活者調査の活用とシーズ開発への接続～」
- ・「健康食品事業者のためのインターネット広告出稿講座 2025
～SNS 広告と成果報酬型広告を正しく活用して売上アップ～」 詳細は[こちら](#)

* アドバイザリースタッフ単位取得対象です

食品保健指導士【2 単位】、NR・サプリメントアドバイザー【5 単位】、健康食品管理士【5 単位】

問合せ先：研修企画部 E-mail kensyu@jhnfa.org

健康食品等に関する

記事情報（日本語サイトより）2025 年 1 月号 No.1

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

○ 記事のカテゴリー（見出しをクリックすると該当カテゴリーに移動します）

[ピックアップ情報](#)

[安全性関連情報](#)

[海外公的機関情報](#)

[表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等](#)

[行政・法令関連情報（その他）](#)

[市場予測、動向（食品・健康食品全般）](#)

[具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）](#)

[市場・企業動向・トレンド、注目ビジネス情報](#)

[消費者意識等の調査・分析](#)

[食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報](#)

[その他の食品関連科学・技術情報](#)

[その他の科学・技術情報](#)

[その他](#)

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ ピックアップ情報

スルーして頂きたい記事情報を、編者の見識・感性（多少の思い入れ）に基づきピックアップしたセクションとご理解下さい。

「Toyota Woven City」で「健康寿命の延伸」という新たな食の可能性に挑戦

～ 「最適化栄養食」を継続的に食べた人の変化を捉え、有効性の実証を実施 ～

日清食品株式会社 - 2025/1/7 <https://www.nissin.com/jp/news/13097>

日清食品株式会社（代表取締役社長:安藤 徳隆、以下 日清食品）は、静岡県裾野市で開発中の「Toyota Woven City」において、トヨタ自動車株式会社（代表取締役社長:佐藤 恒治、以下 トヨタ）、ウーブン・バイ・トヨタ株式会社（代表取締役社長:隈部 肇、以下 WhyT）が有するヒト・モノ・情報・エネルギーといったあらゆるモビリティの活用を見据え、利用者がいつでもどこでも「最適化栄養食」を食べることができる環境を構築するとともに、「最適化栄養食」を継続的に食べている人の心身や行動などの変化を主観と客観双方の観点から確認し、その有効性を実証していき----

カルビーの“じゃがいもを使いつくす”新工場が稼働へ、自動化も加速

MONOist - 2025/1/8 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2501/08/news093.html>

-----「人と地球の笑顔をつくりだす、未来を形にする工場」をコンセプトとしており、再生可能エネルギーや循環型エネルギーシステムの導入により、廃熱や排水、廃棄物を有効活用し、環境負荷を低減。温室効果ガス総排出量 50%減、廃棄物排出量 50%減、水の総使用量 30%減（広島西工場 2019 年 3 月期実績との比較）の達成を目指-----

■ 安全性関連情報

「錠剤、カプセル剤等食品の原材料の安全性に関する自主点検及び製品設計に関する指針（ガイドライン）」及び「錠剤、カプセル剤等食品

の製造管理及び品質管理（GMP）に関する指針（ガイドライン）」について」の一部改正について

消費者庁 - 2024/12/27

https://www.caa.go.jp/policies/policy/standards_evaluation/health_food/assets/cms_standards107_241227_01.pdf

「錠剤、カプセル剤等食品の原材料の安全性に関する自主点検及び製品設計に関する指針（ガイドライン）」及び「錠剤、カプセル剤等食品の製造管理及び品質管理（GMP）に関する指針（ガイドライン）」について」の一部を改正する件（案）に関する意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/12/27

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235110009&Mode=1>

食品安全情報（化学物質）No. 1/ 2025（2025. 01. 08）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2025/foodinfo202501c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【COT】 英国毒性委員会

1. ターメリックおよびクルクミンサプリメントのヒトの健康に対するリスクの可能性に関する声明

【VKM】 ノルウェー食品環境科学委員会

1. ヘスペリジンに健康リスクはない

【FDA】 米国食品医薬品局

1. FDA が「ヘルシー（Healthy）」の強調表示を更新し、消費者に新たな手段を提供する
5. 証言：FDA が米国における糖尿病と肥満の流行を減らし、食品飲料業界の強欲に立ち向かうためにしていること

【USDA】 米国農務省

1. 食事ガイドライン助言委員会の 2025 年版科学的報告がオンラインで入手可能に

食品安全情報（化学物質）No. 26/ 2024（2024. 12. 25）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202426c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【EC】 欧州委員会

1. 欧州委員会、食品接触物質におけるビスフェノール A の使用禁止を採択

【EFSA】 欧州食品安全機関

1. 食品に含まれる複雑な有機ヒ素化合物のリスク評価

【FSA】 英国食品基準庁

3. 新規食品代替タンパク質中のアレルゲン検出方法のレビュー

【COT】 英国毒性委員会

1. 緑茶カテキン類の肝毒性に関する声明

【RIVM】 オランダ国立公衆衛生環境研究所

1. N-アセチルシステイン（NAC）含有フードサプリメントのリスク評価

【FDA】 米国食品医薬品局

3. FDA が有毒なキバナキョウチクトウで代用された特定のサプリメントについて警告する（2024 年 1 月）
4. FDA はゲノム編集を用いて生産された植物由来食品に関する自主的な市販前報告に関するガイダンスを発表する

[記事のカテゴリ](#)に戻る

■ 海外公的機関情報

食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報は、2025 年 1 月 14 日時点ではありませんでした。

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

2024 年度上半期の審査状況

上位は医薬部外品、健康食品、オンラインゲームなど ダークパターン
や不当な No.1 表示も

■ 行政・法令関連情報（その他）

食品表示法に基づく食品表示基準の一部改正に係る消費者委員会への諮問について

消費者庁 - 2025/12/25 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/040562/>

- (1) 栄養強化目的で使用した食品添加物に係る表示免除規定の削除
- (2) 栄養素等表示基準値等の改正
- (3) 個別品目ごとの表示ルールの見直し

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

【新年特別号】健食市場、5%減の1兆2,500億円に

健康メディア.com - 2025/1/1 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20235

2024年の健康食品市場は本紙の推計で前年比4.7%減の1兆2,529億円に減少した。アガリクスショック等によって史上初の市場縮小となった06年の5.8%減に次ぐマイナス幅。過去最高の市場規模となった23年から一転、コロナ前の水準に逆戻りした。紅麴問題を受けた通販定期顧客の離脱に加えて、景気の悪化、様々な物価の上昇に伴う節約志向などが影響した。先行きの不透明感が強まる中、チャネル動向には変化が生じている。05年に5,700億円で市場全体の44%を占め圧倒的なシェアトップだった訪販・MLMは、24年は3,000億円を割り、チャネル別で3位に順位を下げた。代わって2位に浮上したのが、若者にも支持され、インバウンド需要もあったDgSだ。ただ、その薬系店舗も紅麴問題の影響は免れておらず、後半は失速して-----

【健食受託加工・製造】人気受注素材、トップは乳酸菌

健康メディア.com - 2025/1/1 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20193

「経営良好」の企業が半減する結果となった今回の健康食品受託企業調査。増収企業の割合は前年並みだったが、コスト増による利益の圧迫が経営に響いた。人手不足の割合は8割で高止まりしており、少子高齢化という社会要因で、抜本的な対策が見いだせない状況が続く。紅麴問題は依然尾を引いているが、当初に比べて影響が薄れつつある。「稼働は100%」という企業もある中、25年上期は6社が新工場建設を計画している。25年に増収を見込む企業は55.5%で、「24年が底」として、反転攻勢に向けて前を向く企業も少なくない。-----

【ミネラル】「プロテイン」「完全栄養食」などで引き合い

健康メディア.com - 2025/1/1 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20231

食事摂取基準改定、高まるカルシウム摂取の重要性 鉄は耐容削除も 「プロテイン」「完全栄養食」などで引き合い

「日本人の食事摂取基準」が5年ぶりに改訂された。ミネラルでは鉄の耐容上限量を削除したほか、カルシウム摂取の重要性などを説いている。ミネラル素材は、美容プロテインや小中学生向けプロテイン、完全栄養食、介護食、シリアルへの配合が進むほか、大豆ミートのマスキング用途での活用も。原料サプライヤーは、「におい・苦み低減」「小ロット」などの訴求ポイントを打ち出し、差別化できる商品開発を後押し-----

【ヒアルロン酸】海外ニーズ引き続き高まる

健康メディア.com - 2025/1/1 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20227

海外ニーズ引き続き高まる 国内需要も増加傾向に、素材価値に再評価

アフターコロナに入り美容食品の商品開発に対する機運が高まるここ数年、ヒアルロン酸への引き合いが強くなっている。特にニーズが強いのが海外だ。米国や東南アジアでヒアルロン酸を活用した商品が増加している。ヒアルロン酸人気の一番の要因は高い保湿力にある。近年世界的にトレンドになっているコラーゲンと組み合わせたサプリメントをはじめ、パウダー品に配合してプレミアム感を出す設計など、新たな需要も登場しているという。一方国内でも、こうした海外ニーズの影響を受けてか需要が増加傾向に。機能性表示食品では、同成分を関与成分とした受理品が95品と100品目前となった。他の保湿成分に水をあけられていた感が強かったが、確かな作用と素材の品質が再評価されて-----

【クマ笹】サプリ、一般食、ペット向けで活用広がる

健康メディア.com - 2025/1/1 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20222

免疫賦活、口腔ケア、腸内環境改善など サプリ、一般食、ペット向けで活用広がる

クマ笹は、高齢者層を中心としたヘビーユーザーによるリピート率の高さから、調剤薬局をはじめ、通販、催事などで安定した市場を形成している。免疫賦活をはじめ、殺菌、抗炎症、抗ストレス、オーラルケアなど広範にわたるエビデンスを背景に新たな採用が増えており、便通改善を訴求した機能性表示食品や、クマ笹由来の乳酸菌など差別化に寄与する提案も好評だ。飼料を含む動物向けなどで新たな展開も。国産伝統素材としてインバウンドを含む国内需要が旺盛な中、昨年は、120年に一度といわれる開花が話題となり、十分な原料確保への懸念が発生していることから、今後、原料の希少性が一段と増して-----

【注目のダイエット食品】「腸活×ダイエット」ニーズ増

健康メディア.com - 2025/1/1 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20195

“腸活×ダイエット”にニーズ増 機能性表示食品は、ヘルスクレームが多彩に

ダイエット向けのサプリメントは機能性表示食品が定着している。機能性関与成分は種類が増え、「お腹まわり」「ウエスト」「体重」「脂肪」「BMI」「血糖値」など、使用できる文言も多彩に。最近では、「脂肪の燃焼を高める」サプリメントや飲料などの流通も始まっている。市場全体では、“健康美”“引き締めボディ”を望むユーザーが多く、プロテイン商品や、置き換え食品に対する支持が高い。また年々、「腸」への関心が高まり、“腸活×ダイエット”へのニーズが増して-----

【サケ由来機能性素材】核酸・PG・プラセンタがけん引

健康メディア.com - 2025/1/1 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20202

プロテオグリカン（PG）からコラーゲン、核酸、DHA、プラセンタなど、1匹の個体から様々な成分が利用できるサケ。サケ由来の機能性素材は、健康食品から化粧品まで利用される不動の人気素材となっている。販売ルートも多岐に亘り、ドラッグストアや通販の定番製品から、MLMなどのクロズドマーケットのメインアイテムまで、幅広いルートで展開されている。日本の伝統食材としてはもちろん、未利用資源活用や機能性の面で海外でも日本発・サケ由来機能性素材の利用が進んで-----

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

疲労研究の第一人者と老化研究者が参画 「疲労と老化の密接な関係」に着目したプロジェクトがスタート

健康メディア.com - 2025/1/8 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20287

現代人の約8割が慢性的な疲れを感じているとされ、いまや重要な健康課題となっている疲労。現在その対策として医学的にも統合的な研究が行われるなか、疲労対策と老化対策に着目した「抗疲労∞抗老化」啓発プロジェクトが発足した。設立したのは（一社）ウェルネス総合研究所（東京都渋谷区）。発足に伴い昨年12月12日に都内で発足セミナーを開催---

■ 市場・企業動向・トレンド、注目ビジネス情報

ドールの「もったいない」がビジネスになった

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」 - 2024/12/23

<https://www.alterna.co.jp/141000/> （無断転載を禁じます）

1. 青果大手のドールはフードロス対策の一環で「もったいないバナナプロジェクト」を進める
2. 同プロジェクトは、帝国ホテルやスターバックスなど、異業種コラボを続々と生み出す
3. ドールのアジア事業を手がける伊藤忠商事出身の青木寛社長に話を聞いた

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ 消費者意識等の調査・分析

[31704] グルテンフリーに関するアンケート調査（第2回）

マイボイスコム - 2024 年 12 月

【雪印メグミルク「子どもの間食」に関する調査を実施】

5割以上の働くママが「平日の帰宅後、子どもが晩ごはんを待てない」問題を経験！

～料理研究家のあまこ ようこ氏監修、『お助けおやつ3か条』を制定～

雪印メグミルク株式会社 - 2025/1/10

<https://www.meg-snow.com/news/2025/25185/>

雪印メグミルク株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：佐藤 雅俊）は、子どもがいる働く女性 1,035 名を対象に調査を行い、晩ごはん前の子どもの間食習慣に悩みや問題を感じている働くママが多いことがわかりました。

今回の調査で明らかになった、働くママが抱える悩みを解決するために、料理研究家のあまこ ようこ氏の監修のもと、『お助けおやつ 3 か条』を制定いたしました。

■あまこ ようこ氏監修 『お助けおやつ 3 か条』

「お助けおやつ」とは晩ごはん前など食事の合間に小腹を満たすのを助けてくれるおやつのこと

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

フレイル状態の高齢者に特徴的な血中代謝物をメタボロミクス分析で特定—都長寿研

QLifePro 医療ニュース - 2025/1/8

<https://www qlifepro.com/news/20250108/metabolites-frailty.html>

▼関連リンク・東京都健康長寿医療センター研究所 プレスリリース・研究成果

<https://www.tmg Hig.jp/research/release/2024/1226.html>

約半数の 65 歳以上高齢者が関連するフレイル、その代謝学的基盤の多くは未解明

東京都健康長寿医療センター研究所は 12 月 26 日、ガスクロマトグラフィー質量分析（GC-MS）を用いたメタボロミクス分析により、高齢者のフレイルと関連する血清代謝物を特定したと発表した。この研究は、同研究所の志田隆史研究員らの研究グループによるもの。研究成果は、「Biogerontology」にオンライン掲載されて----

黄えんどう豆パスタを食べると、老化や生活習慣病につながる酸化ストレスを改善できることが明らかに ~ヒトを対象とした臨床研究で初めて実証~

株式会社 Mizkan Holdings - 2025/1/7

https://www.mizkan.co.jp/file.jsp?id=2021_Renewal/files/pdf/company/newsrelease/detail/newsrelease-250107-80.pdf

株式会社 ZENB JAPAN（ゼンブ ジャパン）（愛知県半田市、以下 ZENB）および株式会社 Mizkan Holdings 中央研究所（愛知県半田市、以下ミツカン中央研究所）は、同志社大学生命医科学部の米井嘉一教授による監修のもと、黄えんどう豆をうす皮までまるごと使ったパスタ（Yellow Pea Pasta: YPP、以下「黄えんどう豆パスタ」）の摂取がヒトの酸化ストレスを改善することを臨床試験で初めて明らかにしました。酸化ストレスとは、活性酸素による細胞ダメージのことで、健康や老化、生活習慣病などに深く関わる重要な要因とされています。本研究の結果、「黄えんどう豆パスタ」を 1 日 1 食摂取することで酸化ストレスが有意に改善されることが確認され、健康維持をサポートする機能性主食としての可能性が示され-----

ミトコンドリアにある酵素が減少すると肌のダメージ修復が阻害される

MONOist - 2024/12/26 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2412/26/news032.html>

大正製薬は 2024 年 12 月 5 日、ミトコンドリアに存在する酵素「Mitochondrial Ubiquitin Ligase（マイトリガーゼ）」の減少により、酸化ストレスを受けた後の肌のダメージ修復が阻害されることを発見したと発表し-----

資生堂、世界初、光学リアルタイム解析法 FLIM の応用で、シミがシミを呼ぶ特有の細胞老化現象を解明

～ “シミの一生” に着目し、独自のトリプル薬剤を開発、2024 年 IFSCC 最優秀賞受賞～

株式会社資生堂 - 2025/1//8

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003932>

資生堂は、シミ研究の常識を覆すような革新的なアプローチで、シミの悪化メカニズムを解明しました。生きたヒトの皮ふをリアルタイムで観察することができる FLIM を用いて、シミ部位の細胞代謝を評価する新手法を世界で初めて確立し、これまで観察が難しかった、シミがどのように悪化していくかという「シミの一生」を時間軸で捉えることに成功しました。本手法を活用することで、シミ部位で起こる細胞老化現象がシミの悪化根源であることを解明し、シミの悪化に対応する独自のトリプル薬剤を開発しま-----

老化細胞除去は可能な時代に。血管老化から考える「病的老化」と食への期待

ウェルネス総研レポート online—2025/1/10 <https://wellnesslab-report.jp/3561/>

老化やその速度に関する研究に対して多くの注目が集まる昨今、加齢によって蓄積した老化細胞を除去する治療薬と、その作用機序が明らかになってきました。「人は血管から老いる」とも言われるなかで、血管老化は細胞の老化や個体の老化形質、さらには PoA（ペース・オブ・エイジング、老化する速度）に対し、どのように影響するのでしょうか？老化細胞除去に着目した新たな抗老化治療法の研究開発に取り組む、順天堂大学大学院 循環器内科教授 南野 徹 先生に伺いま-----

以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2024 年 12 月 25 日～2025 年 1 月 14 日掲載分から選定したものです。

高血圧患者に対する強力な減塩指導の有効性を検証 タイで行われたクラスター無作為化比較試験

<https://sndj-web.jp/news/003121.php> (2024/12/26)

高血圧患者の塩分摂取量を減らすため、塩分計による食事の塩分濃度の自己モニタリングを含む、強力な食事指導介入によって、ナトリウム摂取量が減り収縮期血圧に有意差が生じたとする研究データが、タイから報告され-----

HMB の安全性、効果、栄養面などについて、国際スポーツ栄養学会 (ISSN) が 12 項目の見解を公表

<https://sndj-web.jp/news/003124.php> (2024/12/30)

国際スポーツ栄養学会 (International Society of Sports Nutrition ; ISSN) はこのほど、 β -ヒドロキシ- β -メチル酪酸 (β -hydroxy- β -methylbutyrate ; HMB) に関する見解 (position stand) をまとめ、同学会発行の「Journal of the International Society of Sports Nutrition」に発表-----

タンパク質の摂取によりアスリートのパフォーマンスは向上するのか？ メタ解析では「やや意外？」な結果に

<https://sndj-web.jp/news/003134.php> (2025/1/10)

アスリートの多くが、筋肉量・筋力アップのために積極的にタンパク質食品を摂取する傾向があるが、そのことは果たして、スポーツパフォーマンスの向上に結び付いているのだろうか？ このような素朴で基本的な疑問の答を、システマティックレビューとメタ解析で検討した結果が報告された。中国の研究者による-----

ウコンや鶏肉エキスなどの多成分サプリが、ラグビー試合後の筋肉損傷マーカーを抑制

<https://sndj-web.jp/news/003133.php> (2025/1/11)

ウコン、鶏肉やりんごのエキス、古代泥炭などからなる多成分サプリメントが、ラグビーの試合により生じる筋損傷を抑制することを示唆するデータが報告された。対プラセボで CK や LDH というマーカーに有意差が認められたという。台湾からの-----

クレアチンサプリに関する一般的な質問と誤解 Part2 国際スポーツ栄養学会が Q&A を発表

<https://sndj-web.jp/news/003135.php> (2025/1/14)

国際スポーツ栄養学会の「Journal of the International Society of Sports Nutrition」に、「クレアチンサプリメントに関する一般的な質問と誤解 (Common questions and misconceptions about creatine supplementation: what does the scientific evidence really show?)」というタイトルのレビュー論文が掲載された。同名のタイトルの論文が 2021 年にも掲載されており、今回の論文はその「Part II」に-----

以下の3 カテゴリーについては、今回特に見当たりませんでした。

■ その他の食品関連科学・技術情報

■ その他の科学・技術情報

■ その他

[記事のカテゴリーに戻る](#)

- 内容についての問合せ先：学術情報部 E-mail : gakuj@jhnfa.org
- 配信元 公益財団法人日本健康・栄養食品協会 <https://www.jhnfa.org/>
- 配信先の変更など 総務部 E-mail : kaiin@jhnfa.org

■ 学術誌「健康・栄養食品研究」論文募集のご案内

学術誌「健康・栄養食品研究」への投稿論文を随時募集しております。

当協会の学術誌「健康・栄養食品研究」は、健康食品に関するフリーアクセスジャーナル（2016年以降オンライン化）です。ヒト試験（介入試験等）以外の論文、研究会の報告、総説なども投稿できます。また、英文での投稿も受け付けております。

[「健康・栄養食品研究」ホームページ](#)（投稿規定、2016年以降の発刊論文など）

投稿先・問合せ先：学術情報部 E-mail : gakuj@jhnfa.org 電話番号：03-3268-3133

■ 「健康・栄養食品研究」掲載論文の転載をご希望の方へ

当協会指定の書式に必要事項を記入して、申請頂く必要があります（料金はかかりません）。なお、販促資料への利用等の商業利用の場合は、申請の条件として「執筆者（又は資金提供者）への内容提示と了解取付」、「転載内容が分かる関連資料の提出」をお願いしております。申請書が必要な方は、学術情報部までご連絡下さい。

問合せ先：学術情報部

E-mail : gakuj@jhnfa.org

電話番号：03-3268-3133

以上